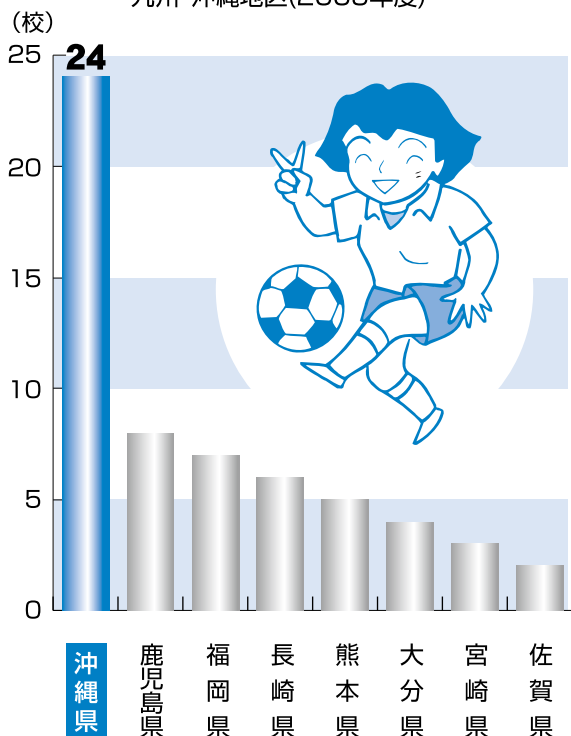


【女子サッカー高体連登録校】

女子サッカー高体連登録校
九州・沖縄地区(2009年度)



24校

なでしこジャパンで知られているサッカー日本女子代表。北京五輪では4位入賞を果たし、世界的にもレベルの高いスポーツ種目だ。女子サッカーの歴史はまだ浅いが、沖縄の女子校生には人気のようだ。

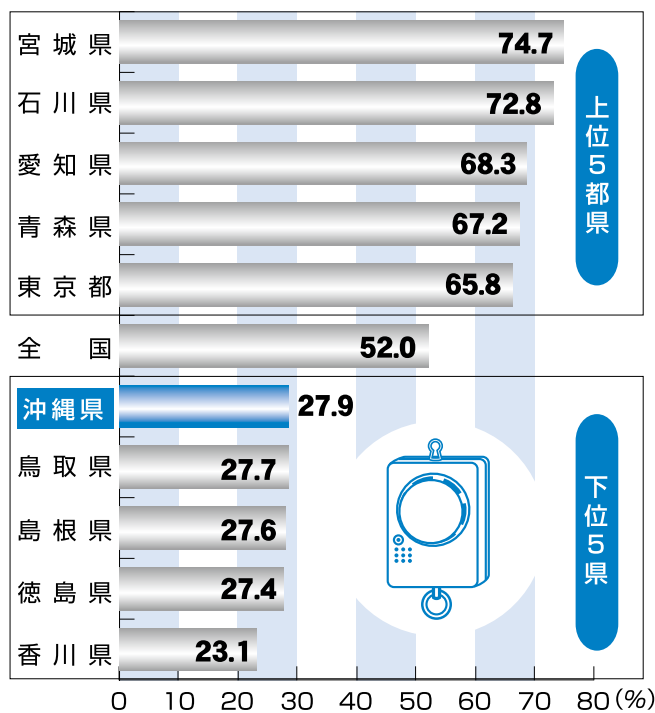
全国高等学校体育連盟の2009年度加盟登録状況によると、沖縄県の女子サッカーの加盟校は24校。九州沖縄地区で最も多い。全国でも6番目に多い登録数だ。登録人数も400人を超え、2位鹿児島県の192人を大きく引き離している。女子サッカーが初めて高体連に登録されたのは08年度。それから県内では4校増えた。着実に女子サッカーのプレイヤーは増えているようだ。

12年にはロンドン五輪が開催される。ぜひ沖縄からなでしこメンバーが選ばれて、金メダルの立役者に育てほしいものだ。

(海邦総研事業支援部／比嘉秀宣)

【住宅用火災警報器の普及率】

住宅用火災警報機の普及率



27.9%

火を使っていることを忘れて他のことをはじめ、焦げた臭いでびっくり。「鍋を焦しただけですんでよかったさあ」とヒヤッとした経験をされた方も多いのではないか？

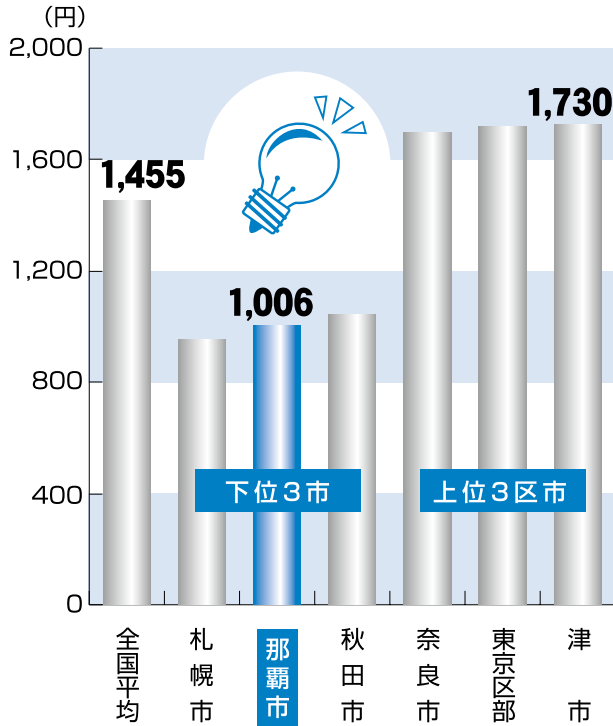
総務省「住宅用火災警報器の普及状況の推計(2009年12月時点)」によると、沖縄県の住宅用火災警報器の普及率は、全国平均を大きく下回り27.9%と下位5県に入っている。

万が一、住宅で火災が起きたとき熱や煙を感知し、家族に知らせてくれる火災警報器は、逃げ遅れの防止にも効果的だ。そのため新築住宅では06年6月から設置が義務づけられ、また県内の既存住宅でも11年6月1日までに設置が必要だ。特に空気が乾燥する冬場は、火災発生率も高くなる季節。大切な“命”と“財産”を守るためにも早めの設置と火災への細心の注意が求められるのではないかな。

(海邦総研人材開発部／安田ひろみ)

【電球の平均購入額】

電球・蛍光灯購入額
(2006～08年度平均)



1,006円

130年前、エジソンの発明した「白熱電球」は当時「世界から夜が消えた」と呼ばれ、現代においても大きな恩恵を与えつづけている。

総務省「2006～08年平均家計調査」によると電球の全国平均購入額は1,455円。上位は津市の1,730円、東京区部の1,716円、奈良市の1,699円の順となっている。これに対して沖縄県は1,006円と、下から2番目の水準である。

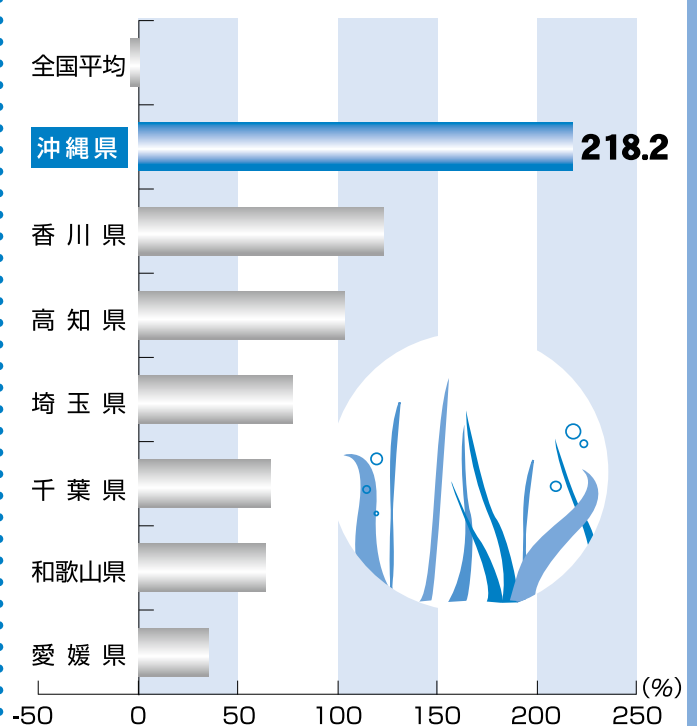
今から約2,000年前の縄文時代に木の枝などを燃やし闇夜を照らし、あかりが誕生した。今では、宇宙から見ると、照明で日本列島がはっきりわかるくらいといわれている。

地球規模での温暖化防止対策が求められているなか、家庭でもできる二酸化炭素排出削減策で照明の省エネ化の機運が高まっている。消費電力の少ない蛍光灯やLED電球に替えるのも手軽な温暖化対策なのかも。

(海邦総研会員事業部／照屋昇憲)

【海藻加工業出荷額増減率】

海藻加工業の出荷額増減率
(2002年～07年)



218.2%

ドライブで訪れた高台から海を望んだとき、黒い網が多く張られている光景を見た。調べるともずくの養殖網で、4月から収穫時期に入るようだ。同様に養殖網で栽培するアーサは収穫時期を迎えており豊作らしい。これら海藻を加工した商品も最近目にする機会は増えたように思う。

経済産業省「工業統計」によれば、沖縄県の2002年から07年までの海藻加工業の出荷額増加率は、218.2%と全国一だ。加工する作業所も増えており、成長が期待される産業と言えそうだ。

一方で、個人消費の低迷により加工食品を取り巻く環境は厳しさを増しており、成長を持続させるにはさらなる工夫も必要となるだろう。

沖縄の青く澄み切った海で育ったおいしい海藻をうまく加工して、今後も売れる商品が増えていくことを期待したいものだ。

(海邦総研事業支援部／比嘉明彦)